

no.23

# CLCからしだね書店便り



11 2022  
November

CLCからしだね書店では…

- 1 キリスト教書が中心ですが、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- 2 お洒落 でかわいい雑貨や小物もあります。
- 3 ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- 4 コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- 5 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- 6 古書のコーナーもあります。ほりだしものもあります。
- 7 読書会や著者を招いての講演会など、人と人との出会い、つながる「対話」の場を提供します。

『悪について』  
『ヒューマニズム考』

エーリッヒ・フロム(ちくま学芸文庫)

渡辺一夫(講談社文芸文庫)



### 1 なぜ人は異質な他人には簡単に暴力を振るえるのか？

「なぜ人間は意見や立場が異なるというだけで他人に対してこれほど残酷になれるのか」。このような素朴で根源的な問いが突きつけられるような出来事は、歴史の本を読めばいくらでも見つけれられますし、今もそのような出来事は起こり続けています。すべての戦争がそうですし、宗教やイデオロギー上の異端に対する弾圧・迫害、あるいは少数派によるテロもそうです。すべてこれらの暴力は、意見や立場を異にする相手に対してだからこそあり得るものです。しかもその動機が宗教やイデオロギーといったまじめなものであるほど、断罪の仕方は徹底的になります。

「確かに人の考え方はそれぞれ全然違う。しかしとにかく同じ人間ではある。そして人間というものは時に正しいことをし、時に間違ったことをする。完璧に正しい人間も、完璧な悪人も存在しない」という誰もが知っているはずの常識に、どうして立ち戻れないのでしょうか。この常識から出発すれば、「自分は自分が正しいと信じて



ニズムを分析しています。

フロムは、「人間は善か悪か」という人間の本质に関する古典的な二者択一の問題を取り上げることから、人間の悪の問題を考え始めます。こうした「善か悪か」の二者択一は延々と続く議論の歴史を持っており、どちらの立場にもそれなりの説得力があるように見え、いまだ合意にいたっていません。そこでフロムは「善か悪か」のどちらの立場からも離れ、人間の本质をとらえるのがこれほど難しいという事実そのものに、人間の本质を見出そうとします。

私は、このジレンマは人間の本质をある性質や実体ではなく、人間という存在に内在する矛盾と定義することで解決できると考える。(『悪について』161頁)

「人間という存在に内在する矛盾」とは何か。それは、人間が持つ知性によってもたらされるものだと言います。

人間には他の動物と同様に知性があり、直接的、実的な目的を果たすために思考過程を使うことができる。しかし人間にはもう一つ、動物にはない精神的な特質が備わっている。人は自分自身を知り、自分の過去や未来、つまり死を自覚している。また

いる」ということと、「自分は間違っている可能性がある」という考えは決して矛盾するものではないということが分かるはず。そしてそれを裏返して言うと、「相手も自分が正しいと信じている」し、「相手が正しい可能性もある」ということとなるでしょう。

ここで問題になるのは、自分の正しさを信じることではなく、その信じ方があまりに徹底的で、ほかの可能性を最初から寄せ付けないほど強くなるということです。あるいはその信じ方があまりに素朴で、ほかの可能性がそもそも頭に浮かんでこないということです。そして人間のなす途轍もなく大きな悪は、たいていこうした徹底的な(あるいは素朴な)信仰から生じるものだということです。

### 2 人間の本质は矛盾である？

以上のような問題を考えるにあたって、参考になる本があります。エーリッヒ・フロム『悪について』です。『自由からの逃走』や『愛するということ』で著名な心理学者フロムは、本書で人間の持つ悪への傾向と、それが発生する心理的メカ

自分の小ささや無力さもわかっている。他者を他者一友人、敵、未知の人として認識している。(同161頁)

このような自由な知性をもつ人間は、同時に、死に代表される物理的な制限のもとに生きざるを得ません。人間は自分の意志でこの世に生まれたわけではありませんし、生き続けたいと思ってもいつか必ず死にます。さらに人は他者を意識することで、どれだけ親しい人との間にも越えられない壁があり、死が最後に決定的な別れをもたらすということを知ります。こうして人間の自由な思考と有限性の矛盾が、人間に耐えがたい不安と孤独感をもたらします。

自然のなかで人間はその支配力や災難に左右されるが、動物を自然の一部たらしめる無意識性に欠けているために、自然を超越するのだ。人間は自然に囚われながら、自らの思考では自由であるという、驚くべき矛盾に直面する。(同161頁)

死や他者といった、自分には経験できないものを思考できずしてしまうために、孤独・不安・恐怖といった感情が生じます。これらの感情は、人間が「身体であり精神である、天使であり動物であるといった、互いに矛盾する二つの世界に属している」(161〜162頁)ことによるものです。この人間的な感



情は、解決されることを求める問題となります。

そして善と悪は、こうした本質的な問題に対して人間が取りうる二つの態度にはかならないとフロムは言います。理性を捨て、外的な権威と自分を一体化させることで不安や孤独感を解消することもできるし、不安や孤独感を原動力として人間性を成長させることで新たな調和をもたらすこともできる。人間は常にどちらを選択するか選んでいる存在であり、一概に人間がどちらの態度をとるかは言えません。それは結局のところそれぞれの人間につきつけられた課題でしかないからです。

ですから、「人間は善である(悪である)」という風に明確な言明はできません。むしろ、「人間は善でも悪でもない」(同171頁)。人間の本質をなすものは、善や悪といった人間のなんらかの性質ではなく、「課題をつきつけられて、それを解決するよう求められている」という、人間の置かれた状況なのです。

「これらの答えはどれも人間の本質をなすものではないということ強調しておきたい。本質をなすものは問題それ自体であり、答えを出す必要性

## おかせ メダデ教会のついで

前月の「二人の安倍さんの告別式」に引き続き、今月も大阪の西成にある、メダデ教会のひとこまをシェアします。

「うちらはな、炊き出しの教会ちゃいまっせ」

メダデ教会の西田良子牧師の声が、西成の四角公園に響き渡った。西成ではいろいろな団体が炊き出しや物資の配布をしている。何の行列かな、と思ってみると、たいていは、炊き出しで食べ物やお茶を配っていたりする。西成警察署横の四角公園は、普段からいろんな人がたむろしている。炊き出しが頻繁に行われる場所でもある。その日のメダデ教会の集会には、炊き出し目当てに100名近くのおっさん達が集まっていた。

「あんたらは朝起きて、『今日はどいも物もらおかなあ』って考えとるんちゃうか。そんな物もろてはっかりの生活『人間の生活』ゆえへんでー」

炊き出しに集まっている人たちは、本当に一文無しの人たちではない。彼らの大半は生活保護を受給していたり、仕事の収入があったりする。しかし、酒、たばこ、ギャンブルに使ってしまうので、炊き出しに並んで空腹を満たしていた。

そのものである。人間存在のさまざまな形態は本質ではなく、それ自体が本質である葛藤に対する答えなのだ。(同162~163頁、傍線引用者)

人間の生来の性質、あるいは本質は、善や悪といった特定の実体ではなく、人間存在の条件そのものに根ざす矛盾である(同167頁)

さらに、人間の本質である矛盾は、なんらかの形で解決されることを求めています。フロムによると、善と悪は人間の本質ではなく、それぞれの人間がこの解決を求める矛盾に与える回答なのです。

私がいま指摘したいのは、この葛藤を人間の本質——つまりそれがあるために人間が人間になるもの——とみなすだけでは十分ではないということだ。この説明の範囲を超え、人間の葛藤そのものが解決を強く求めていると認識することが必要である。(同162頁)

こうした人間の置かれた状況を、フロムは「人間であることと重荷」(同164頁)と表現しています。

(次回に続く...)

【書店員G】



京都市東部障害者地域生活支援センター！  
武山 世里子  
からしだねセンター主任  
(精神保健福祉士・相談支援専門員)

「与えられるはっかりのあんたらをな、世間の人はなんて思ってるか知ってるか？」

「人間のくす」って思ってるぞ。  
あんたら、それでええんがいーくやしなないんかい！  
俺はくす違ふーなんちゅうことゆうんじやいーって立ち上がるんのかいー」

100名程のおっさん達は誰も何も言わなかった。話を聞いているかどうかもわからないような、そんな焦点の定まらないような眼をしてその場に座っていた。  
「あほなことゆうな！わしは人間のくすなんかやない！」と声をあげ、立ち上がる人はいなかった

「あんたらは、酒、たばこ、ギャンブルで金使って、炊き出しに並んどる  
うちの子(メダデ教会の信徒たち)は、みんなあんたらと同じ生活しとったけど、『神さん信じる』ゆうて、酒もギャンブルもやめよった。  
その子らが神様にささげたお金で、今日あんたらに配る食材を買った。土産も買った。  
なあ、考えてくれや。与えられるだけで終わらんとしてくれ。人間として、誇りをもって、顔上げて生きてくれ」



メダデ教会の信徒らも、酒、たばこ、ギャンブル、薬で人生を棒にふるってきた人たち、犯罪を犯してきた人たちだった。そして、公園での伝道集会で西田牧師と出会った人たちだった。決して多くはない収入から（ほとんどの信徒が生活保護受給者）、教会に献金をさげている。

メダデ教会の経済は、そのような信徒のさげざる献金と、西田牧師の年金で運営されている。

炊き出しは、動ける信徒たちが食材を買い出し、調理する。ペットボトルのお茶は「高い」ので、やかんで作って、紙コップに入れて配る。

「「スト削減」を徹底しながら配布していた。

「「口ナ禍で物資の配布が増えている。」

「西成にもの配りにくる。教会やらNPOにも言いたいことがあるねん。もの配ったらな、このおっさんらは、浮いた金で酒買うねん。ギャンブルしよんねん。人助けやと思つて配つてるもんがな。人間のくずにしてまうねん。まいた金がまかれた人間をどないしてるんが、確認しに来てくれへんかー」

いろんな団体が西成のために寄付を募り、そのお金で物資の配布をしたりしている。

メダデ教会の集会中にも、公園の敷地内で他の団体が、おにぎりとお茶の配布に来た。

静かに話を聞いていた4分の1ほどの人たちが席を離れ、おにぎりに流れていった。

おにぎりをもらって、メダデのテントに戻ってくるおっさん

その間、自分たちが食事をすることもなく、ただ参加者に食事を提供するために動きまわっていた。  
車いすや、認知症などで、そこでの役割を担えない人は、「二」と長時間、その場に座っていた。  
「自分のご飯はいつになったらもらえるんや」と口に出す人は一人もいなかった。

激しい喧騒の中で、メダデの人たちのいるところだけ、静かで平和だった。

彼らの醸し出す空気は「平和」以外のなにものでもなかった。

「喧騒」と「平和」

この違いはなんだろう。

メダデの信徒たちも、かつてはこの四角公園の集会に、ごほん目当てに来ていた人々だった。

今日集まった参加者と何ら変わらない人々だった。

メダデ教会に行くようになり、彼らをそばで見ていて思う。彼らは自分を変えるために血のにじむような努力をしたわけではない。

キリスト教について知識があったわけでも、西田牧師のことを「信頼するに値する人だ」と知っていたわけでもない。

これ以上失うものは何も無い状態の時

「おっさんの子にならんか」

と言われて、炊き出しに並ぶ延長のような感覚で行って行っただけ、そんな人たちだ。

達を、西田牧師は「帰って。おにぎりもらったんやったらうちこの炊き出しは必要ない。もう来んといて」と再び集会に参加することを許さなかった。

炊き出しの準備から、片づけ終わるまでの約5時間、西田牧師のあまりにもストリートな物言いに、誰かが怒りだすのではないが、はらはらしつ放しだった。

目の前で起こる「二」一つの出来事に、私の頭もこころもパンクしていた。

しかし、あの喧騒の中で見た、西成のおっさん達の姿、そして、メダデ教会の信徒たちの姿は脳裏に焼き付いて今も離れない。

礼拝が終わるとおっさん達は、炊き込みご飯とみそ汁を「奪うように」食べ始めた。

食べている間「おいしいなあ」とか「あったまるなあ」とかそんな会話もなく、ただ口の中にもくもくと食べ物を運んでいた。

「ガツガツ」食べて、「さっさと」立ち去っていった。

「無表情」「無感動」「喧騒」……そんな印象を残しておっさん達は散って行った。

一方で、メダデ教会の信徒たちは、

100名近くの参加者の胃袋を満たすための食事を作り、それを運び、提供し、後始末や片付けを分担しながらやっていた。

そして、ついに行ったら、「ブルドーザー」みたいに、ガガガと強力な力で、今までは異なる場所に押し出されてしまった、そんな感じがする。

西田牧師は「愛」のない人生を送っていた彼らを、ブルドーザーのようにかき集め、「愛」のあるメダデの家族の輪に放り込んだのだ。

「絶対一人にしたらあかん。一人になったらあかん。酒やらギャンブルにやられてまっぞー！」と一人一人に言い聞かせながら。

「あんたは人間のくず違う！ 顔をあげんかい！ 誇りを持たんかい！」

自分ではもう変われない、自分なんか愛される価値はない、自分なんか真剣に向き合ってくれる人はいない……

自分があきらめても、声をかけ、探し続ける人がいる。ブルドーザーのような他者によって、愛のつながりに放り込まれた人たちは、明らかに今までは違う「平和」の空気をまとうことが可能になるのだ。

メダデ教会の信徒たちを見ていて、それが私の希望になっている。



# 平和について 考えたい

平和について特集した8月号を読んでくださった野田秀先生から、教会報に書かれた一文を送って頂きました。とても沁みる文章でしたのでお許しを得てここに転載させて頂きます。ひとことで戦争体験と言っても、その有様は人により世代により様々に違うことを改めて知りました。大切なのは、それが自らの人間形成や人生にどんな影響を与え意味を持ってきたか、絶えず謙虚に問い続けること。そんなことを教えられました。学生時代『東京大空襲』の著者早乙女勝元氏の講演会がありました。話が終わって私は何か質問したのですが、その答に「追体験」という言葉があつて、今も心に残っています。「追体験」は積極的な意思を持った大切な営みであること、そんな話だったと思います。今回のご寄稿で一つの大事な「追体験」をさせて頂いた気がします。(社会福祉法人ミッションからしだね理事長 坂岡隆司)

## 私の戦争体験 野田 秀 (元フリー・メソジスト桜ヶ丘教会牧師)

「私が言っていることをよく考えなさい。主はすべてのことについて、理解する力をあなたに与えてくださいます。」

(テモテへの手紙第二章7節)

私には戦闘体験というものはありません。ですから私の戦争体験は、むしろ“戦時体験”と言つべきであろうと思います。戦時に幼少期を過ごしたことが、私の生涯に与えた影響と結果について証しいたします。

とはないのだと教えられました。このことをある人は「根拠のない楽観主義」であると言ひ、それは現在も日本人の中に見られる傾向であると指摘しています。こうした精神主義に、幼時から支配されながら私は育つたのです。それは、死についてよく理解していない子どもが、天皇のために死ぬことこそ最高の善である信じ込むことでした。

その結果、私は自分でものを考えることや、流される情報を疑うことを知らない人間になり、結果的に、歴史を知らない、人間を知らない、真実を知らない、偏つた知識しか持たないままに育つたのです。

中学一年生の夏、1945年(昭和20年)8月15日に突然終戦となりました。それは陸軍幼年学校の受験を二日後に控えた日でした。その日、真つ青な夏空に、B29が一機飛行機雲をたなびかせながら飛んでいた光景が忘れられません。警報が鳴らなかつたことが不思議でした。

敗戦を迎えた日本は、一日にして民主主義というまるで異なる思想への転換を迫られました。私たちが本気で信じていたことは、大方向違つていたのだと明らかにされたのです。その結果、私たちはダブルパンチを食らい突き放されることとなります。戦中戦後の思想的落差の大きさが、

日本は1930年代に入ってから、ナチスドイツの暴走に並走するように、急速に軍国化します。1932年(昭和7年)生まれの私の幼少期は、ぴったりとその時代に重なります。私の5歳から13歳までの8年間、日本は中国そしてアメリカやイギリスなどと戦争をしていたからです。その間、国を動かしていたのは軍部でした。日本は神の国であり天皇は神である。だから、決して戦争に敗けるこ

私たちの世代をさらに迷わせることになったからです。

その虚脱状態から立ち上がらせてくれたのが、21歳の時に与えられたキリストの救いでした。私は天皇ではなくイエス・キリストに従う者に変えられたのです。ほどなく献身して伝道者になりました。無我夢中で福音を伝え、教会形成に当たりました。

ただし、牧師である自分の中に、あの戦時体験が行き場もなく留まつていたことを次第に知ることになります。それは、信仰によって直ちに換えられる性質のものではありませんでした。特に、教会政治という現実の問題への対応において、私の思考は、幼時に得たものによる以外の方法を知らなかつたのです。

そのために人々に迷惑をかけ多くの失敗もいたしました。今思うことは、私の戦時体験は、すべてが悪いものであつたとは思いませんが、誰もが持つ、育つた時代による違いの一つであつたということです。それは可能な限り修正し、乗り越えて行くべきものであつたと思います。そして、その指針となることが聖書には書かれてっていると信じています。

スタッフおススメ  
今年の聖書カバーもカッコいい!

# からしだねオリジナル 本革聖書カバー 2022版

素材の表情を生かした艶やかで  
透明感のあるクリスタルアニリン仕上げの  
革を使用。

使い込むごとに革がなじみ、  
色も変化していきます。



5

~~6~~個限定

すでに残りわずか  
お早目のご購入を...

クリスマスプレゼント  
にいかがでしょうか?

共同訳・新改訳聖書、  
旧約・新約聖書の  
B6版が入るサイズです。

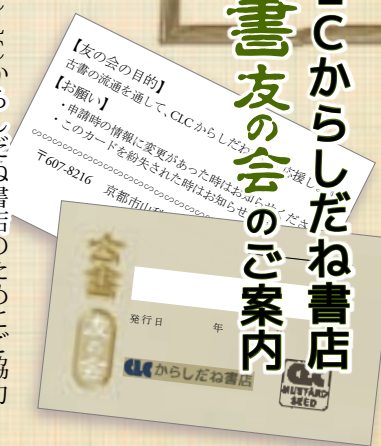


裁断からステッチまですべて  
手作業で仕上げたこだわりのカバーです。

8,000円(税込)

超特価です

## CLCからしだね書店 古書友の会のご案内



日頃よりCLCからしだね書店のためにご協力  
いただき、ありがとうございます。  
このたび、「古書の流通を通して、からしだね書  
店を応援すること」を目的に、「CLCからしだ  
ね書店・古書友の会」が発足しましたのでお知  
らせします。  
「友の会」に入会いただけますと、特典として、  
地下の古書コーナーをご利用いただけます。  
書店レジにて、簡単な入会申込書を記入して提  
出ください。入会費は無料です。

まだ値段がついていない本もありますが、おおむ  
ね、文庫本は100円、他の本も100円～定価  
の7割程度でお買い上げいただいております。(中  
には2円50銭という定価の本もあつたりします  
が、それはまた別の話)

古書一覧リストページ

<https://karashidane.or.jp/project/job-assistance/clc-books/usedbook/usedbook-list>



皆さまからご寄贈いただいた  
古本・古書は、からしだねワー  
クスで働く利用者や職員、ボ  
ランティアさんで、整理とク  
リーニング、値付け、登録な  
どを分担して行っています。

中には、絶版になった貴重な本もあり、「あ、こんなところに、欲しかった本が…!」と思わぬお宝を発見するお客様もられます。

ご寄贈くださった方も、からしだね  
ワークスで働く利用者さんたちの暮  
らしが支えられ、ふさわしい買い手  
のもとに本が届きますように、とい  
うお気持ちだと思いますので、他で  
高値がついている本も、定価以上の  
値はつけません。

◆HPの  
古書の「コーナーを  
ご利用ください」  
「古書一覧リスト  
ページ」から検索  
できます。  
絶版の本もあります。  
おめあての本が見つか  
たら、ぜひご来店くだ  
さい(念のため売れ  
てしまっていないか電話  
かメールでご確認いた  
だけたらと思います)



## 古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担  
いただけるとありがたいです。(受付できないも  
のもありますので事前にお知らせください)

百科事典・辞書・開封済  
みの CD・DVD・月刊誌・  
週刊誌等は  
受け付けておりません

### 【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本 (多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし (料理、健康、経済等) にかかわる本
- 5 小説 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

### 【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX075-574-0025

Mail : clc @ karashidane.or.jp

### 【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

### 【献本感謝】

吉田功様、岩上祝仁様、山根ひろみ様、高橋椰子様、中田千代様 (順不同)

**10月の古書の収益は72,004円でした。【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思っております。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。**

### 編集後記

◆野田秀先生の「戦争体験記」はいかがでしたでしょうか。ロシアのウクライナへの侵攻は今年2月のことでした。からしだね館の2階ベランダには、今もウクライナの国旗を掲げていますが、あわただしい毎日のなかで、今も続く戦争のことを、遠い国の出来事のように意識の隅に追いやっていないかと、ふと不安になります。◆暗い話題が多いなか、もっとも小さく弱いものとして、この世界に来てくださった方とともに、京都の片隅の書店から、希望の灯をともし続けたいと願っています。◆紅葉が美しいなかで、書店はクリスマスシーズンです。手帳(クリスチャンダイアリー、クリスチャンプランナー)は、ほぼ売り切れ状態で、店頭にあるもので終了になりそうです。お早めにお買い求めください。◆スーパーにある買い物用のカートをいただきました。とても便利に使っています。◆何かと忙しい時期にはありますが、どうぞ皆様、心身ともにお大事になさってください。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね  
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス  
からしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館  
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025  
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店だよりの  
バックナンバーはこちらから

